

3 年 団

学年主任： 森 基書

(1) 今年度の目標

- ① 3年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・自主、自律的な生活を実践し、協調的態度を育成する。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。
 - ・進路を明確にし、目標実現に向けて計画的に粘り強く学習する。
- ③ 豊かな人間性を涵養する。
 - ・社会生活における役割や自己責任を自覚し、深く豊かな人間性を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 3年生であることを自覚し、規律正しい生活が送れるよう支援する。
 - ・正しい言葉遣いや服装・態度、時間や約束の厳守などの基本的な生活態度やマナーが、社会人として重要であることを意識させ、機会あるごとに反省を促しつつ指導する。
 - ・人間関係や勉強・進路などの悩みや不安を察知し、心身ともに健康な学校生活を送ることができるよう、生徒との面談や保護者との連携、および校内連携を適切に図りつつ支援する。
- ② 主体的に進路目標が実現できることを支援する。
 - ・進路HRや面談を通して進路意識を高め、受験生として自覚ある充実した毎日を送ることができるように支援する。
 - ・塾などに依存した受け身の学習ではなく、主体的な学習、特に家庭学習を充実させるよう指導する。
 - ・進路説明会や懇談会を充実させることにより、生徒と保護者が共通理解の下で進路を決定できるようにする。
 - ・「進路だより」を効果的に発行する。また、受験情報誌やインターネットなどを利用して、進路に関する情報を充実させる。
 - ・総合的な探究の時間で「論文探究」「進路探究」「医療探究」の講座を設け、早期から進路実現に向けて取り組ませる。
 - ・三者懇談や面談などを通して、進路を明確にさせる。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
 - ・受験という価値観に一元化されることなく、学ぶことの楽しさを追究するとともに、社会の動きを知り、周囲の人々の気持ちに配慮できるような広い視野を持たせる。
 - ・運動会や津島杯（クラスマッチ）などの学校行事に積極的に参加させることによって、好ましい人間関係を築かせ、協力・協調の精神を養う。
 - ・総合的な探究の時間における教科横断的な学習によって、社会全体に目を向けた活動ができるようにする。

(3) 成果

① 3年生であることを自覚し、規律正しい生活が送れるよう支援する。

- ・正しい言葉遣いや服装・態度、時間を守ることが社会人として重要であることを、服装検査や遅刻指導の機会を含め、折にふれて指導することができた。
- ・欠席をした場合の保護者への連絡や、学校生活アンケートの結果を受けての対応、スクールカウンセラーを含めての校内連携、および日頃の観察・声かけ・面談等を通して、生徒が心身ともに健康な学校生活が送れるように支援することができた。

②主体的に進路目標が実現できることを支援する。

- ・進路HRや進路説明会（本年度生徒にはZOOMで実施し、保護者にはグーグルドライブで後日配信した）を通して、生徒が進路の情報を収集し、主体的に各自の進路について考え、志望校を決定することができた。また、「進路だより」（年4回）や「学年団だより」（年3回）の発行も、生徒が受験勉強への取り組み方や心構えについて知り、目標に向けて主体的かつ計画的に学習を進めるのに役立った。
- ・担任が教室の環境作りに工夫を凝らし、共通テストまでのカウントダウンカレンダー（日めくり）を作成したり、モチベーションを高める言葉を掲示したりすることで、クラス全体で受験に向かう雰囲気を作ることができた。
- ・総合的な探究の時間を通して、生徒が目標とする大学について調べたり、興味のある学問分野について探求したりできるように支援し、進路意識を高めることができた。
- ・塾の自習室を利用する生徒が多い中、学校でも自習室を設け、放課後も学校で残って勉強ができるように環境を整え、生徒の受験勉強を支援した。また、2月の家庭学習中も自習室としてHR教室を開放するとともに、各教科の先生方に添削指導をってもらう部屋を設け、多くの生徒が個別試験に向けての勉強に利用した。
- ・面接週間（4月、9月）だけでなく、校内・校外模試の成績返却時にも面談を行うなど、生徒の状況に応じて面接や個別指導を実施し、受験勉強や進路決定がうまく行えるようにアドバイスした。また、多くの教員が受験に即した面接や小論文、添削指導に熱心に取り組み、生徒の進路実現を支援した。
- ・1学期末、2学期末の保護者懇談に加え、共通テスト後も懇談会を実施し、生徒と保護者が納得のいく進路を決定できるように支援した。

③好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。

- ・運動会、津島杯、遠足等の学校行事では、クラス制作のTシャツで応援をしたり、楽しい時間を共有したりすることで、友好的な人間関係を築かせることができた。
- ・総合的な探究の時間において、教科横断的な学習を行うことで、社会全体に目を向け、視野を広げさせることができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

入学当初から心身に不調をきたし、欠席する生徒が多かった。コロナ禍で学校行事の多くが中止となり、目標を設定して計画的に全員で努力する機会が減ったことや、勉強以外の学校生活の楽しみが奪われたことが、少なからず影響していると考えられる。学校行事の大切さを職員全員が認識し、やむを得ず規模を縮小することはあっても行事を中止することなく実施するよう改善する。